

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立若楠小学校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童(生徒)の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童(生徒)一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童(生徒)の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童(中学校3年生生徒)

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- | |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 |
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

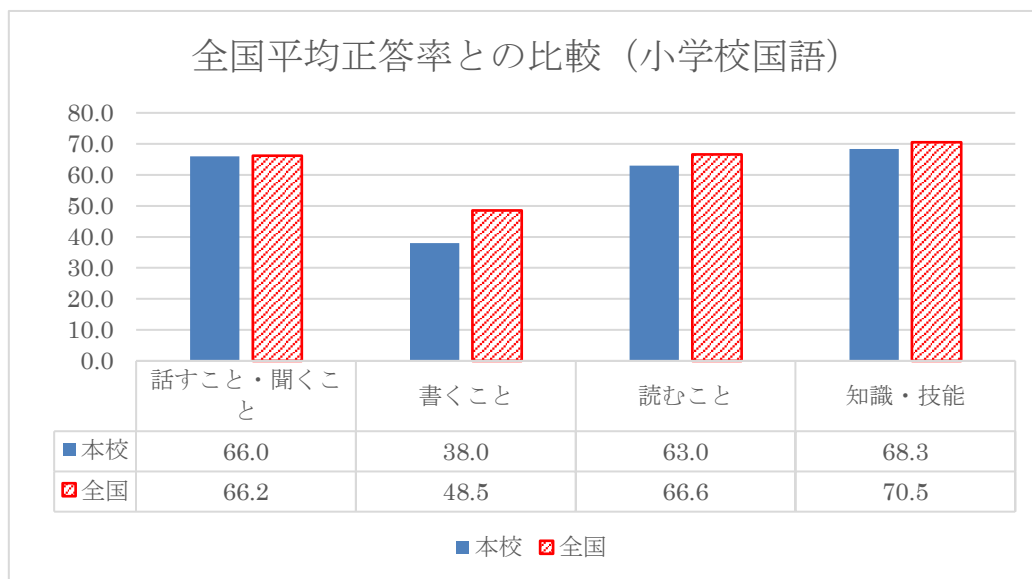
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「話すこと・聞くこと」、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「読むこと」の領域については、全国平均まであとわずかという結果でした。「書くこと」については、他の領域と比べると、正答率が大幅に低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「話すこと・聞くこと」の領域は、全国平均とほぼ同じ結果となりました。「やさしい話し方」「あたたかい聴き方」をベースにした授業に取り組んだ成果が少しずつ表れてきていると考えられます。課題は、「書くこと」の領域です。正答率の1番低かった問題は、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題でした。文章構成を考えながら書くことを苦手としている児童が多くいます。また、読書離れが進み、様々な文章表現に慣れていないことも考えられます。授業で身に付けたい資質・能力を意識しながら、反復練習や活用問題等に学校・家庭で取り組んでいくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

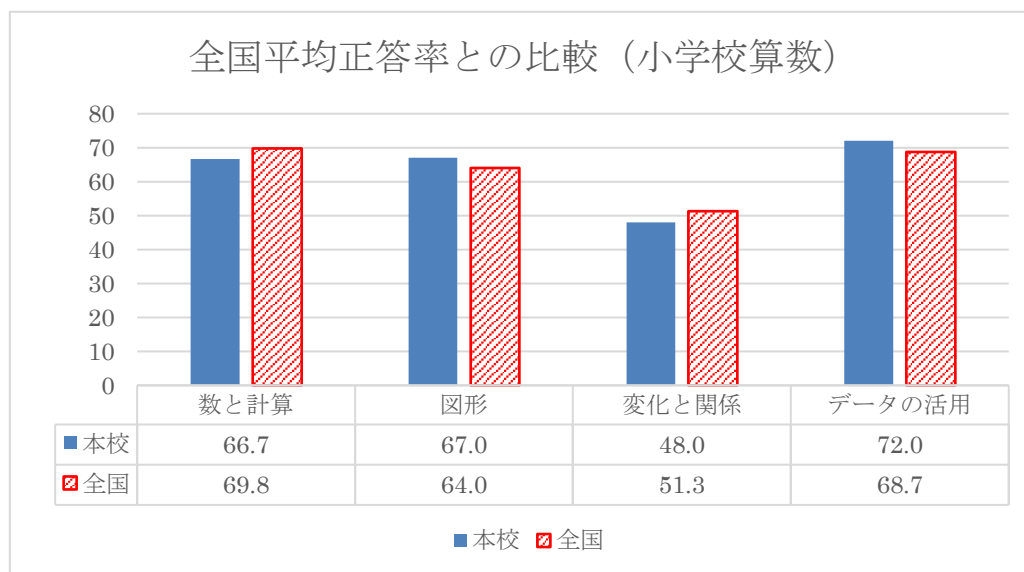
【学校では】

- 「やさしい話し方」「あたたかい聴き方」をベースにした授業を展開し、学び合いや意見交流を授業の中に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ります。
- 学年に応じて、作文や日記など文章表現を高める活動に取り組みます。
- 辞書やタブレットを活用しながら分からない言葉をすぐに調べる習慣をつけ、語彙力を高めていきます。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科で効果が発揮されます。
- 読書を大切にしていきましょう。図書館などに行き、文学・科学・歴史・地理・芸術など、様々な本や、興味のある本に触れさせることは、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。
- 分からない言葉に出会ったら、辞書やタブレットを活用する習慣をつけましょう。語彙力を高めることで、表現力を豊かにしたり、知識の幅を広げたりすることができます。

2 算数(数学)



(1) 結果

全体としては、全国平均と比べて、正答率は同程度の結果でした。「数と計算」の領域を除いた「図形」、「測定」、「データの活用」の領域で全国平均を上回っています。

また、無回答率が低く、記述式の正答率が平均より高くなっており、積極的に考えて自分の言葉で回答しようとする力が身に付いている児童が多いといえます。

(2) 成果と課題

単純な計算についての正答率は、9割を超えており、日ごろの学校や家庭での反復学習が功を奏していると考えられます。また、話し合う場の工夫(グループ学習、テーマを決めて話し合う活動)がなされてきたため、互いの考えを認め合おうとする雰囲気が高まったことで、積極的に考えて自分の言葉で回答しようとする力が身に付いていると言えます。

しかし、「割合」についての正答率が低い結果となりました。条件が提示された問題について、その場で考える即応力に課題が見られました。日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、問題の大切なキーワードを捉える力を育てることが重要であると考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 数値を多く見積もったり、少なく見積もったりする数の処理の良さを実感させるために、生活場面の中から作った問題を作成し、提示します。
- 様々な見方や考え方ができるように、友達と考えを交流する活動を引き続き、取り入れていきます。また、自分の考えを、図や表、式を使って説明する機会を増やし、表現力と記述力の向上に努めます。
- 算数科では、問題提示の段階で、問題文の大切な箇所に印を付けたリ線を引いたりして、情報を整理し、共有する時間を設けます。

【ご家庭では】

- 反復練習で確実に力が身に付いてきています。今後も、お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉を掛けていただくと次への励みになります。
- 算数が好きになるには、低学年のうちから習ったことを子どもの生活と結び付けることが大切です。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とありますので、ぜひ、算数に関連させてみてください。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1)結果

《生活習慣》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	93.3%	94.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	78.8%	81.5%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	100%	90.4%
携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。	73.1%	71.5%
普段(月～金)1日当たりテレビゲーム(PC、携帯型、携帯電話・スマートフォンを含む)をする時間が2時間未満。	51.9%	49.8%

朝食・就寝については全国平均をわずかに下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。引き続き、家庭と学校が協力して、習慣化していきましょう。

家庭内でのスマートフォンやコンピュータ使用のルールは、おおかた守られており、テレビゲームをする時間が2時間未満である家庭が多い結果となりました。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	86.6%	71.1%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	5.8%	11.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	15.4%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	34.6%	34.3%
学校の授業時間以外に普段(月～金)、1日当たり30分以上読書をする。	40.4%	36.4%

家庭学習については自分で計画を立てて勉強をしている児童が全国平均より多い結果となりました。普段1日当たりの勉強時間については、3時間以上している児童が全国平均よりも少ない結果となりましたが、1時間から3時間勉強している児童はわずかに多い結果となりました。引き続き、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。

(2)改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習(自学)についても全学年で取り組み、お手本になる自学ノートを職員室の前に掲示して定着しています。自分が苦手な分野を中心に自学に取り組む児童も増えています。
- 朝の読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。

【ご家庭では】

- 学校から、生活振り返りカード等で、自分の生活を見直す機会を取り入れていますが、大切なことは、お子さん自身が進んで取り組んでいるかどうかです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときをチャンスにして、褒めることで意識が更に高まります。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。